

事業名：内水面水産資源振興事業補助金

商工労働課 主査（商工労働）

政策	02 明日につながる産業の振興								
施策	03 商業の振興								
基本事業	99 施策の総合推進								
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
江別漁業協同組合	
手段（事務事業の内容、やり方）	
江別漁業協同組合に対する補助金 【根拠条例等】江別市商工労働関係事業補助金交付規則	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
漁協のヤツメウナギ、ワカサギ、川エビなどの漁業資源の確保を目指す繁殖保護事業について補助を行う。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	組員数	人	28	29	23	28
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	80	80	80	80
活動指標2						
成果指標1	漁業協同組合の事業実施数	件	6	6	6	6
成果指標2						
事業費(A)		千円	80	80	80	80
正職員人件費(B)		千円	1,204	1,202	1,172	1,174
総事業費(A+B)		千円	1,284	1,282	1,252	1,254

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	江別漁業協同組合が行う繁殖保護事業の一部に補助	補助金80千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
新規事業立案根拠とデータ 漁獲高は、上流における浚渫工事やダム建設などの影響も受けるので成果指標からは単純に評価できない。放流魚の生育状況等について、推移を見守る必要がある。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

妥当である	理由 根拠	漁業者の保護ばかりでなく、市の「名産」であるヤツメウナギの資源保護を図ることは、関連する商業やイベントの振興にも繋がることから、妥当であるといえる。
妥当性が低い		

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい	理由 根拠	当事業による補助金は小額であり成果に与える影響は小さいが、ヤツメウナギ等の資源保護を図ること自体の上位貢献度は高いといえる。資源が枯渇状態の現状では基本事業への上位貢献は難しいが、全国的に希少な存在となっているヤツメウナギの資源回復は基本事業へ大きく貢献する可能性を持っているといえる。
貢献度ふつう		
貢献度小さい		
基礎的事務事業		

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

上がっている	理由 根拠	資源の減少の要因は様々な説があるうえ、資源の回復には、長期的な対策が必要であるため、現時点で、目に見える成果はあがっていない。しかし、平成16年度より道の機関による調査・研究がはじまっており、その成果をふまえて、専門機関が取り組みを継続している。これらは10年、20年といった単位で効果が期待されるものであり、現時点での成果は指標として現れていない。
どちらかといえば上がっている		
上がらない		

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大	理由 根拠	当事業による補助金は小額であることから、当補助金の額内で成果向上の余地を計ることは難しい。
成果向上余地 中		
成果向上余地 小・なし		

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？

ある	理由 根拠	小額補助であることから算定できない。
なし		